

公立大学法人

名桜大学

MEIO UNIVERSITY



北部地域活性化と

コミュニティの形成プロジェクト



沖縄県北部の現状

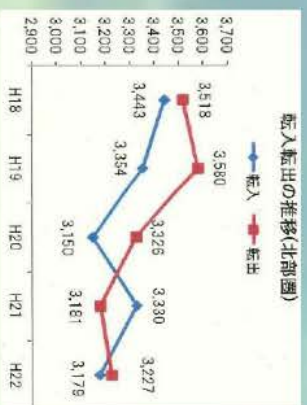


資料：全国過疎地域自立促進連盟（2000～2012）

人口の転入・転出

右のグラフは過疎化などのくらい進んでいるのかを具体的に数値であらわしている。

H21年度には転入が多くなっているが、徐々に右肩下がりになっているのがこのグラフからでも分かる。沖縄本島北部の農村地域では、特に若年層の人口流出が多い。



資料：国勢調査(H22)

名桜大学の立地する沖縄本島北部

(名護市以北)の地域では、左図のように過疎化が進行しているという現状である。過疎化が進むと町の活力が失われ更なる過疎化がすすみ、働き手である若い力が流出してしまう。

この図から読み取れる事は、沖縄県の中でも北部地域が特に、過疎化が進んでいる。北部地域では人口減少と高齢化と深刻な状況である。

課題

名桜大学は公立化により県外出身の学生が増えた事によって今まで以上に

①地域についての学びを求めようになった

②地域とのつながりを求めるようになった

一方地域は、過疎化が進み若い力が失われつつある。

そのため北部に唯一の大学である名桜大学が必要である

①若い力＝大学生の価値

②地方の大学として地域に溶け込みやすい

③住んでいるからわかる・住んでいないとわからない問題

地域と大学が繋がる必要性

地域

高齢者⇒生きる生きがい

継承の場

子ども⇒学生が将来のモデルに

名桜生

①社会性を育む

②人間関係の幅をつくる

③勉強の実践の場

名桜大学の現状

①公立大学が担う『地域貢献活動』をより積極的に取り組む必要があるが、地域と大学を繋ぐ学生主体の活動集団が存在しない。

②地域活動、学内の活動、イベント等の情報が少なく、さらに情報提供の方法に偏りがある。

③学生が主体となって、地域と名桜大学を繋ぐイベントが少ない。

実施

2012年7月～2013年6月の一年間

- ・約200のイベント
- ・総140名の学生が参加
- ・間接的に関わった人 約40万人

若い力を必要とする地域人々



宣伝・周知
・MCG掲示板
・SNSの利用
(LINE, Facebook)



学生参加

主な活動

名護ビール祭り



【目標】
MCGの社会的周知度の向上
学生の視野を社会的方面において広げる

【ターゲット】
学生参加者

【ニーズ】
学生の成長
住民との交流
MCGの活動促進

【取り組み】
ビール祭りにおける
会場設営・ゴミ処理

子ども祭り



【目標】
地域住民と信頼関係を築く
集客し活気を生む
学生が地域住民の声を聞く

【ターゲット】
過疎化が進む大浦地区の住民

【ニーズ】
集客効果が欲しい
活気が欲しい

【取り組み】
子どもと遊び住民と交流
住民の声を聞いた



結果

地域との
コミュニティ形成

講演会開催

子育てセミナー
関係者との繋がり形成

学生間の
繋がり形成



ワークキャンプ

【目標】
交流を通しての
学生の成長と住民との
信頼関係の形成

【ターゲット】
地域住民
学生

【ニーズ】
住民と学生の成長
学生間の交流
学生による成長

【取り組み】
昔の観光スポットの開拓
(滝周辺の整備)

⑤今後のプラン

・MCGの三つの役割

プラットフォーム

沖縄県北部にある高等教育機関の窓口となり、学校、学生間の連携→地域への還元

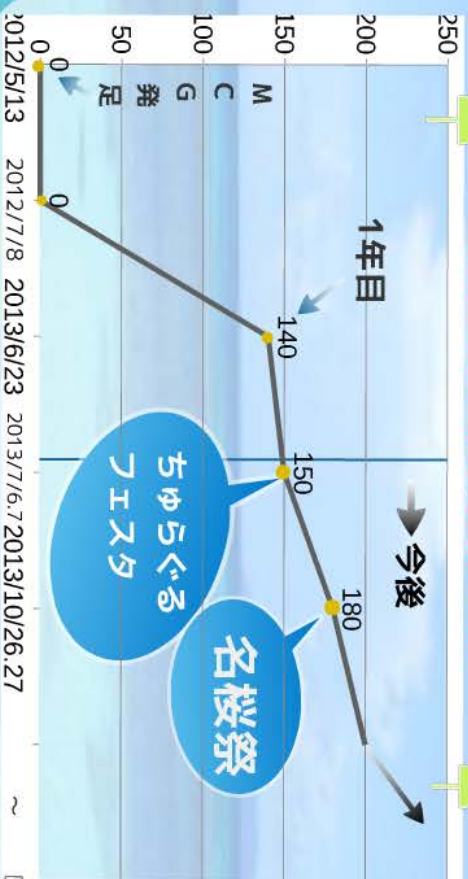
フシリリサーチション

MCGが地域と行政、企業が話し合う場を提供
活動が円滑に進むように中立的立場から支援

情報共有

SNSの利用とメディア(ラジオ)を活用し、認知度の向上を図る

MCG企画の参加人数



北部地域と名桜大学と連携した活動

今後の名桜大学の動きとしては、大学COC事業に申請するなど地域貢献活動に力を入れていく動きが見られる。名桜大学25年度事業計画では地域の発展と活性化に資するため、従来実施されてきた地域貢献事業を統合し、エクステンションセンターを設置した。このことから、学生と地域をつなぐ活動を行っているMCGの活動は大学の動きに準じていると考えられる。したがって、大学にとってMCGの存在意義は今後さらに高まると予想され、MCGの〈学生の、学生による、学生と地域のための支援活動〉は大学にとって欠かせない存在になると考えられる。

MCGの企画・運営

- ・ワークショップ
- ・講演会

対象：名桜大学生・地域の人々
目的：学生と地域の人々の交流の場をつくる



※1：沖縄県北部地域に住む人々が多くを学び、暮らしの充実

を図る、さまざまな生涯活動を推進、支援する施設